第４回白石市総合教育会議　会議録

１　招集日時　　平成２９年１２月１１日（月）午後１時３０分

２　招集場所　　白石市役所　３階　第３会議室

３　出席委員　　市長　山田裕一
教育委員長　高橋久　　教育委員　佐藤敏義　　教育委員　片平美智子
教育委員　佐藤よし美　教育長　武田政春

４　欠席委員　　なし

５　事務局出席者
教育委員会事務局
理事兼教育専門監　齊藤直
学校管理課　　課長　小室英明　　課長補佐　日下好悦
課長補佐　村上忠敏　　主幹　菊地智佳
生涯学習課　　課長　佐藤浩
総務部
総務部長　大槻洋一
総務課秘書係長　岡﨑敏明

６　開会時刻　　午後１時３０分

７　報告事項　（１）平成２９年度の白石市の教育について
（２）学校教育の現状ついて

８　意見交換　（１）白石市の教育の将来構想について

９　閉会

（午後１時３０分開会）

小室課長　　ただいまから第４回白石市総合教育会議を開催いたします。まず初めに山田市長よりごあいさつをお願いいたします。

山田市長　　教育委員の皆様におかれましては、常日頃より学校教育そして生涯教育をはじめとする白石市の教育行政全般にわたりまして、さまざまな角度からご意見をいただいたり白石市の教育行政に多大なるお力添えを賜っておりますこと、この場を借りて厚く御礼申し上げます。１２月になりまして、だいぶ寒くなってまいりました。非常に心配

なのが子ども達のインフルエンザでございます。市では、中学３年生にインフルエンザ予防接種ワクチンの助成事業を行っておりますが、例年は１２月末日という期限を設けておりましたが、本年は１ヶ月延長いたしまして１月末日までというご案内をさせていただいたところでございます。少子化という非常に厳しい現状の中で、学校再編の動きも本格的に進んでいるところでございますが、今後ともご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。それでは、本日の総合教育会議、どうぞよろしくお願いいたします。

小室課長　それではレジメの３　報告事項に入らせていただきます。なお、この会議につきましては、白石市総合教育会議運営要綱第３条の規定により市長が議長となり、会議の進行をお願いしたいと考えております。市長、よろしくお願いいたします。

山田市長　それでは、報告事項に入りたいと思います。まず、報告事項は２点ございますが、１点目、平成２９年度の白石市の教育について、高橋委員長から報告をお願いいたします。

高橋委員長　私からは白石市の教育について大まかなところでお話しさせていただきます。まず、学校教育におきましては、幼児・児童・生徒の育成、社会教育としての市民の方々の健康について考えていきたいと思います。幼児・児童・生徒の育成については、「豊かな心・健やかな体・確かな学力」を大きな柱として取り組んでおります。特に、確かな学力よりまず心が大切ではないかということで、市としてはあえて「豊かな心」を第一にしております。また、生涯学習におきましては、市民一人ひとりが心豊かで生きがいのある生活を作り出していただきたいということ、さらにその方々が連帯意識に満ち、活力ある地域づくりに取り組んでもらえるように、それらを育成すべく努力をしていかなければならないというのが大きな柱でございます。学校教育におきましては、特に、子ども達の成長にとってこれは絶対にプラスになると思うことは意欲的に挑戦していこう、やらなければ生まれるものがないという方針で取り組んでいます。例えばＡＬＴを小学校から導入するとか、ＩＣＴの積極的な活用、３５人学級、最近特に支援を要する子どもが普通学級に増えてきており、支援員の配置等の予算をとってもらっており、市当局のご理解に感謝しております。過日開催されました、ｐ４ｃフォーラム in 白石大会におきましては、市長自ら２日間も出席いただき、これは我々のみならず、先生方にとってこんなに意を強くしたことはないのではないかと思っております。市内の先生方も土曜日にもかかわらず、ほとんどすべての学校の先生方が参加しています。その先生方の心意気に我々も応えなければならないと思っております。また、我々は新任を大事に育てなければならないと考えております。初任の場合は３年で転勤するというルールがありますが、初任の先生方はほとんど市内異動を希望しているということで、心に通じる教育をやっていくことが基本なのかなと思っております。さらに、今年度小学校１校、次年度中学校２校が統合の予定となっております。統合を実施した市町の関係者に下調べをしたことがございます。「大変

だ、行けば非難集中でつるし上げの状態だ、じっと忍の一字だ」と聞いていたので覚悟はしていたのですが、白石市の場合は比較的スムーズにいっていると聞いております。これは、２年間、あり方検討委員会の方々が親身になって、統合ありきではなく教育とは何かからスタートして検討したことに起因しているのではないかと思っております。学力の向上については、年２回、白石独自のテストを行っていますが、少しずつ兆しが見えてきています。黙々と粛々と積み重ねていくことが大事だと思っています。また、生涯学習におきましては、地域の方一人ひとりがいきいきと生きていくために、地域を大事にしてもらうということを鑑みまして、いろいろなイベントを行っております。マラソン大会、綱引き大会等々の行事を通して活性化を図っておりますが、一番大事なのは中央公民館を中心とした各地区の公民館がそれぞれにいきいきと活動することだと思っております。各地区の公民館については指定管理制度を採っており、運営については地域の協議会に任せておりますが、非常に頑張っている公民館もありますので、中央公民館としてもできるだけ地区公民館の支援・指導等を行っていきたいと思います。また、地域の活性化のためにまちづくり交付金もいただいており、それぞれの地区の中でいろいろな形で活動していくことも少しずつ芽生えてきていると思っております。それと同時に最近脚光を浴びているのは、協働教育ということで、地域の力をもっと活用しよう、学校に結びつけて活動しようということで、４本の柱を掲げて取り組んでもらっています。一つ目としては、「家庭教育の支援」ということで出前講座や小中学校にいろいろな形で支援するものになります。二つ目の「地域活動支援」として、ジュニアリーダーの育成等、いろいろな指導者を育成しています。さらにまた、３つ目の柱としましては、「学校教育支援」として、学校の要請に基づいてボランティアを派遣する等、地域と学校の温度差が低く抑えられるようにしなければならないということ、４つ目の柱として「放課後子ども教室」については、昨年度は、越河小、斎川小、深谷小で週１回２時間程度で実施しております。平成３０年度にあたっては第一小、第二小、越河小、深谷小での実施を考えております。以上、簡単ではございますが、報告といたします。

山田市長　ありがとうございました。只今、高橋委員長からご報告をいただきました内容につきまして、皆様からご質問等があればお受けいたします。いかがでしょうか。

山田市長　ｐ４ｃのことも報告がございましたが、今回、第３回のフォーラムを白石市で開催されたということが大きかったと思います。これまで武田教育長が東京に出張される折りに上廣倫理財団に足を運んでいただく等の様々な活動がありまして、平成２４年の歴史フォーラムや夢先生からスタートして、ｐ４ｃも含めて様々な教育に支援をいただいております。ｐ４ｃにつきまして、今後、市としても継続していきたいと思うのですが、委員の皆様からご発言とかあればよろしくお願いいたします。

武田教育長　ｐ４ｃについて上廣倫理財団の話が出ましたが、最初のつながりをもったのは市長が議員のときに、市長の紹介で夢先生に出会って以来ずっと続いており、非常に多くの

ご支援をいただいております。今回の歴史フォーラム、ｐ４ｃも同じです。ハワイ大に教員の派遣をしてもらったり、若い教員の意欲をかき立てる大きな要素になっております。

高橋委員長　市長はｐ４ｃの授業を参観してびっくりなさったのではないかと思いますが、あれをみるとゆったりとしているんですね。これが定着するまでに時間もかかっていくと思うのですが、ゆったりした雰囲気が心のゆとりにつながっていくのかなと思っております。授業をご覧になっていかがでしたか。

山田市長　セーフティなどｐ４ｃで決められたルールの中で子ども達が自由に発言ができて、また、友達の発言を聞いてより深く考えるというところで、答えは一つではなく、人それぞれいろんな考え方の子がいるというのをお互いに認め合ったり、尊重しあいながらみんなと協力して何かを作り上げていくとか、これからの社会を作り上げていくなかで大きなツールになっていくのではないかと思いました。教育は、長く続けていかないと成果が現れてこない、ｐ４ｃも同じで継続していくことで子ども達にいろいろな考えが芽生えたり、友達を大切にする心とか心の教育につながっていくという話を意見交換やレセプション等でお聞きしました。ぜひ、教育委員の皆様、教育委員会が中心となって今後とも大事な白石市の教育の一環として続けて欲しいと思います。

山田市長　それでは、報告事項２番の学校教育の現状について、報告をお願いいたします。

齊藤理事　これまでの主な学校教育の流れについて、お話しさせていただきます。教育事務所の指導主事が全学校を訪問する指導主事訪問がございまして、私もすべての学校を訪問させていただきました。今年度より指導主事訪問の形態が変わりまして、今までは１日かけて指導いただきましたが、今年度から半日の訪問に変わり、研究授業が学校規模にもよりますが、３コマから４コマの授業になりました。半日になった趣旨は、例えば、ある学校のあるグループの教員全員が小学校３年生の授業に係わる、５年生の授業に係わるといったように、教員全員が指導案、授業の計画のようなものですが、授業の計画の段階から係わっていき、一つの授業をみんなで作り上げるというスタンスになっております。中学校などは教科が違いますが、教科の枠を越えて授業を作り上げていきます。主に若手が当日の授業者になっておりますが、若手にとってはいい研修になると思いますし、逆に先輩方にとっては、事前授業をして、みんなでたたき上げて、児童・生徒のためにいい授業を作り上げていくという姿勢に変わっております。授業の様子ですが、どの学校も児童生徒が落ち着いて授業に取り組んでおりました。その日だけではないと思います。普段からの先生方の指導、子ども達のがんばりが伺えたと思っております。先ほども話題に出ておりましたが、ｐ４ｃについても、１２月１日、２日とフォーラムがありました。ｐ４ｃ以外にも市内小中連携の英語の推進授業を実施しております。小学校、中学校、白石高校も参画して連携の推進の会議や研修会を開催しているところです。そこに小中の場合は必ずＡＬＴが参画してい

ます。小学校、中学校ともオールイングリッシュで授業を行っており、ＡＬＴの活躍は非常に大きいものがあります。他には、白石中がともに学ぶということで指定を受けており、障がいのある児童生徒とない児童生徒が一緒になってやっていく、インクルーシブ教育と言いますが、公開研究授業を行ったところでございます。防災教育の指定を受けた福岡中学校においては、教科の中で防災を学ばせるということで、その中にもｐ４ｃの手法を取り入れた学習形態も含まれておりました。他に、大鷹沢小学校では過日１２月３日に中間公開、来年が本発表になりますが、対話的で深い学びというｐ４ｃの手法を取り入れた道徳の授業に取り組んでいるところでございます。セーフティの概念がｐ４ｃに限らずどんな授業でも他の意見を参考にする、否定しないという心の安心した授業展開、学習活動が展開できることはすばらしいことではないかと思っております。

山田市長　ありがとうございました。只今の報告につきまして、皆様からご質問等がありましたらお願いいたします。

武田教育長　今年度は指定校がだいぶ多く入っています。大鷹沢小学校は道徳の指定となっています。これは、国立教育政策研究所という国の指定になっております。震災後の宮城県で、教科で国の指定を受けたのは初めてになるそうです。ｐ４ｃが中心ですが、非常に深まりが出てきていると思っております。英語の連携については、高校も巻き込んで行っております。義務教育課ですから小中英語連携となっておりますが、実際のところは高校も入っております。

山田市長　白石市民歌を学校教育の中でもぜひ多く歌う機会を増やしてほしいという話をさせていただき、音楽祭でも歌っていただいたということでしたが、そのほかに学校教育のどんな場面で歌っているのか、教えていただきたいと思います。

齊藤理事　体育祭で歌っています。オクターブ下げて歌いやすくなったものを流して、みんなで歌っています。

山田市長　非常に元気が出るテンポの曲なので、来年の新春を寿ぐ市民の集いでも皆さんと一緒に歌いたいと思っていますが、生涯学習、学校教育でも市民歌を歌う機会をさらに設けてほしいと思います。

片平委員　私は、ずっと機会がなくて歌うことはなかったのですが、久しぶりに小中音楽祭で歌いました。

山田市長　そうでしたか。菊池先生にオクターブ下げていただいて、非常に歌いやすい曲調になったと思っています。今後とも、子ども達に口ずさんでもらえるようにしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

山田市長　　そのほか、皆様からご質問、確認したいことなどございますでしょうか。

山田市長　　ここで報告事項につきましては、終了としたいと思います。それでは、４番、意見交換に入ります。皆様から意見をいただきたいと思いますが、まず、本市の特色ある教育の一つである３５人学級につきましてご意見を賜りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

佐藤(よ)委員　先生方から３５人で指導できるとことは本当に助かっているという声をよく聞きます。授業以外のいろいろな仕事も多くなっていますし、特別な事情を抱えているお子さんもたくさんおります。３５人学級をしていただくと、先生方は子ども達と向き合う時間を多く確保できると思っておりますので、今後も続けてほしい施策だと思っているところです。

山田市長　　ありがとうございます。私は中学校のときに１クラス４４人で４クラスでしたが、振り返れば、先生は大変だったなあと思う反面、クラスの仲間とけんかをしたり仲直りしたり等の経験もできたと思います。また、人数がいるので、合唱コンクール等まとまったときにはすごく力を発揮できたと思います。そういう観点から考えると、人数が少なくなることによって、クラス全体で何かを作り上げていくときには、作業は楽になるとは思うのですが、達成感とかはどうなるのかと率直に思うのですが、そのあたりは皆様いかがでしょうか。

佐藤(敏)委員　少子化による統合の問題が起こったときに、小規模校のメリットと大規模校のメリットを比較検討したときと似ていると思ったのですが、今、市長がおっしゃったように大規模校には大規模校のメリットがあり、小規模校には小規模校のメリットがあります。市内のいろんな学校を回らせていただくと、小規模校は否応なしに一人ひとりが役割を担って活動しています。クラスの人数が多いと誰かがやってくれるという場面が結構あるようです。小規模校は一人が二役なりしています。縦割りの活動の際の上下関係、異年齢交流と相まって、小規模校の子ども達は自覚を持っていろいろな役割を担っていると感じるので、そういったところが小規模校のメリットだと思います。

山田市長　　私は本来、これは国の方で推進するべき事業ではないかと思っております。国の政策の中で高校無償化というのも非常に大事な政策だとは思うのですが、「まちづくりは人づくり」や「教育は国家百年の計」とも言われますように、特に義務教育の間、学校教育の充実は欠かせないと思っています。間違いなく子ども達の中に先生からの影響というのもあるんですね。そういう面でも、小学校６年、中学校３年の９年間にわたって国がしっかりと３５人学級にする必要があると思っています。それが本来の人育て、我が国の学校教育にとって非常にプラスになると個人的には考えています。

高橋委員長　以前と比較してということではなく、今の保護者及び子ども達一人ひとりの資質を考えたときに、やっぱり目が行き届く、先生方と子ども達がいろいろな話ができるというのは、３５人がぎりぎりのところだと感じています。親も子ども達の考え方も多種多様になってきています。ですから、３５人なら先生方がゆとりを持って教育にあたることにもなると考えています。３５人学級を市で認めていただいたときには、先生方の喜び方はすごかったんです。白石市に行けば、こういう形で教育に当たれるというのがあるんですね。３５人学級というのは、保護者や子どもにとっても一人ひとりをよく見てもらっているという安心感にもつながってきています。予算を伴うことなのでいろいろ難しいところではあると思います。今は、一つの場面を見て全部を判断できないことが多くなっています。ですから、よく、新聞等の報道で「えっ、あの子が、信じられない。そんな様子は見られませんでした」ということが多くなっています。たった５人と思われるかもしれませんが、たった５人の差ではないと私個人としては思っています。

武田教育長　市長がおっしゃった義務教育は国がすべて認めるという、これが理想だと思っています。教育長会議等でも要望として出しています。国ができなくて、県で小学校２年生と中学校１年生に３５人学級を入れてもらい非常にありがたかったんですね。本来、国の予算でやるべきだと思っていますので、毎年、県の都市教育長会議や市町村教育委員会協議会で、年次計画で増やしてほしいと要望しています。私は、教科指導もさることながら、生徒指導面で３５人学級を入れたのは平成１６年でした。平成一桁代のときと今の学校は、荒れ方が全く違うんですね。その理由は、先生方の目が家庭にも届いているからだと思います。問題があると家庭訪問をする人数も多くりますが、そうなると回りきれなくなるんですね。人数が少なくなれば担任の先生でも常に、課題のある子どもの家庭に出向くことができる。そういったことから、生徒指導の問題が以前より少なくなっているのではないかと個人的には考えています。白石市で３５人学級をやっていることは、先生方にとって非常にありがたいことだと思います。

山田市長　貴重なご意見ありがとうございます。それでは、特別支援学級等支援員の配置につきまして、皆様方からご意見を賜りたいと思います。よろしくお願いいたします。

佐藤(よ)委員　先ほども話になったのですが、今は本当にいろいろな子ども達がいます。昔は聞かなかったような障がいや境界線というようなお子さんもだいぶ増えているように感じます。また、家庭的に問題のあるようなお子さんもいます。私もこれまで、その子にかかりっきりになり、他の子ども達をないがしろにしなければいけない場合も経験してきました。そんなときに、目で合図してぱっと動いてくださる支援員がいらっしゃることで非常に助かりました。

高橋委員長　例えば、支援学校が適当だと判断をもらっても、親が同意しなければ行くことができ

ないんですね。親が同意しない場合は受け容れざるを得ないというのが現状です。そのようなときに、他の子ども達のがんばりも支えるために、支援員がいるというのは大きいです。支援員がいなければ、わーっと泣かれたりクラスから出て行ったりすると、他の子に「ちょっと待ってて、自習ね」と言って追いかけて行かなければならない。そういう面で支援員を置いていただいているのは先生方にとってありがたいことです。

山田市長　先ほど教育長が３５人学級のところで昔に比べると荒れ方が変わった、荒れなくなったというのは、本当にそうだなと思います。昔は、お酒を飲んで学校に来たり、職員室のガラスをバットで破ったりというような話も聞きましたが、今そういう話は聞かなくなりました。その一方で、ちゃんと授業中に座っていられない子ども達が増えていると感じます。極端な荒れ方はないとしてもどうしてこうなったのか、明らかに昔の子ども達とは違ってきていると感じます。家庭環境やほかの様々な環境が子ども達にとってマイナスの影響となって、結果としてみんなと一緒に勉強ができなかったり、自分の感情が抑えらず大声を出したり動き回ったりとかになると、担任の先生だけですべてをみることは難しいので、支援員の配置は絶対必要だと思っています。保護者からの同意がなければ、普通学級に入れざるを得ないという中で、支援員の果たす役割は大きいと思っています。仙南の他市町と比較すると、白石市は支援員の数も突出して多い状況です。他市もこの事業を行っていますが、こんなにもたくさんの支援員を入れていないんですね。そういう現実を見ると、白石の子どもだけ特別なのかと疑問に思うのですが、そのあたりについて、皆様からご意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

武田教育長　支援員の数を比べると白石は仙南の中では恵まれている部分があると思いますが、その町の教育へのかかわり方の温度差は間違いなくあるだろうと思います。なぜこんなにという部分では、一つは、就学指導審議会で特別支援学級が妥当だと判断されるケースが毎年多くなっているのは間違いないと思います。未就学の段階で、保育園や幼稚園、あるいは保健師が関わっていく中で、審議会の方に上がってきています。また、病気や障がいの多様性があります。昔は入園させられなかったのかもしれませんが、今は入園させるという方針を採っています。学校教育法の改正により就学指導審議会で出した方向性であっても、保護者が同意しなければ、保護者の希望を受け容れるようになっています。例えば、支援学校の小学部が適当と判断されても、他の子と同じように小学校の普通学級に入れたいという希望があったり、低学年のうちならまだなんとかなるのではないかというとらえ方をしている場合があります。知的障がいに関しては家庭環境的な部分が大きいです。医療の進歩といった状況もあるだろうと思います。いろんな要素があって人数の増加につながっていると思います。

山田市長　白石は支援を必要とする子ども達が多いのかなあと感じていたところです。支援を必要とするお子さんには教育といった部分も手厚くしていくことによって、社会が成り

立っていくと思います。クラスの中に障がいをもっている子どもさんがいることによってクラスがまとまったり等、そういったこともあると聞いたこともありますので、ともに育っていく中で互いに心も育っていくという面でも、支援員の果たす役割は非常に大きいと改めて実感いたしました。

片平委員　音楽発表会を見に行ったときに、支援員のそばにいて発表している姿を見てきました。みんなとなじんでやっており、地道に指導していただいている成果が出ていると感じました。みんなと一緒に発表する場に立てるのは、親にとっても感慨深いものもあるだろうし、本人にとってもいいことだと思って見てきました。

山田市長　私の方から、学校にお願いしたいことがあるのですが、学校の中では支援員を先生と呼ぶのが子ども達にとって望ましいことであると思います。学校の方でも配慮していただければと思います。

武田教育長　今は学校というのは教員だけで成り立つという考え方はなくなり、支援員やカウンセラー等、いろいろな人が入って学校が成り立つ、チームとして学校が構成される「チーム学校」という考え方になっています。みんな立場が同じという学校経営になっていますので、この辺についてはもう一度確認したいと思います。

山田市長　生涯学習の中で、平成３０年度開設の放課後子ども教室について意見交換したいと思います。

佐藤課長　その前に内容について説明をさせていただきたいと思います。資料に基づき、地域学校協働活動における平成３０年度の放課後子ども教室について説明いたします。国では放課後子ども総合プランの推進をしております。これは共働き家庭等の小１の壁を打破するとともに次代を担う人材を育成するために、すべての児童が放課後を安心・安全に過ごせるようにということで文科省所管の放課後子ども教室と厚労省が所管する放課後児童クラブが相方で情報を共有し、連携して総合的な放課後対策を推進していくということになっております。放課後子ども総合プランでは、①すべての児童を対象として学習プログラムの強化・充実、②放課後児童クラブと一体型又は連携型の放課後子ども教室を計画的に整備していく、特に一体型の取り組みを加速していこうという取り組みでございます。一体型とは共働き家庭等も含めたすべての就学児童を対象に、共通の活動場所において多様な共通プログラムを実施する子ども教室になります。普段は、児童クラブ、子ども教室、それぞれの場所において活動し、放課後児童クラブの子ども達がときどき放課後子ども教室のに参加して、放課後子ども教室のプログラムを一緒になって学習する内容になっております。例えば、今回予定している第一小学校と第一児童館が隣接していることから同一の敷地でやれるということで一体型と考えております。また、同じ場所になく離れている児童クラブの児童が子ども教室に参加する場合を連携型といっております。これについては第二小学校と第二

児童館を想定しております。３ページをご覧ください。表には平成３０年度に一体型と連携型をそれぞれ１箇所開設する計画を載せております。一体型は、第一小学校と第一児童館、連携型は第二小学校と第二児童館となっております。４ページをご覧ください。第一小学校区の放課後子ども教室の開設にあたり、人数を把握するためにアンケートを実施しました。全児童の保護者３７８名を対象に実施しまして、２８２名から回答を得ました。現在の児童館利用状況について、現在３２％の児童の利用がなされている状況です。５ページをご覧ください。保護者が希望する子どもの放課後の過ごし方の質問で多かったのは、宿題、運動、友達と遊ぶが上位３つになっております。６ページをご覧ください。（７）放課後子ども教室を開設した場合の利用希望ということで、８割方が開設すれば利用したいというニーズが出ております。第一小学校区と第二小学校区の放課後子ども教室の開設案を載せておりますが、一体型の第一小学校区は、ニーズ調査に基づいた内容となっております。１年生から３年生を対象に週１回、宿題と自主学習、体験プログラムを活動内容とし、平成３０年６月開設予定としています。連携型の第二小学校区は、斎川小学校が統合になりますので、今まで斎川小学校の放課後子ども教室で実施してきた伝統文化体験を年数回、第二小学校には空き教室がないため、斎川小学校跡地で行う予定です。第二小学校区は平成３０年５月開設を予定しております。現在この２箇所の開設に向けて準備をしているところです。以上です。

山田市長　では、委員の皆様からご質問、確認等ありましたらお願いいたします。

佐藤(よ)委員　越河など地区ごとに今までやっていたものはそのまま継続となりますか。これまでやっていたものに、新たに増えるということでよろしいですか。

佐藤課長　そうです。新たに増えるものは、第一小学校区になります。斎川小学校が統合により斎川の子ども教室がなくなるので、それを第二小学校にもってくるのですが、第二小では空き教室がないため、バスで斎川公民館に移動して実施するということで考えております。

山田市長　第一、第二以外の放課後子ども教室の実施の状況は説明できますか。

佐藤課長　現在実施しているところは、斎川小、越河小、深谷小の３箇所やっております。いずれも週１回で月４回、午後２時から４時の間で実施しております。

山田市長　担っていただいているのは、地域の方々ですか。

佐藤課長　地域のボランティアの方を１５名程度、登録していただいて、できる日に４人程度で実施しております。

山田市長　　他にご質問等ありませんか。

高橋委員長　質問ではないのですが、このようなことをやることによって、平日なので、地域のお年寄りの方々の活性化につながるとよく耳にしています。また、地域のお年寄りの方々が子ども達にとってもより身近なものになっています。

山田市長　　私は今年、斎川のグラウンドゴルフ大会に出席してきたのですが、二小の子ども達も参加していました。非常にいいなあと思って見てきました。斎川の地域の方にしめ縄づくりや団子さし等いろいろな伝統行事をやっていただいていたので、斎川小学校の閉校後、二小の子ども達も参加できるようになることは非常にいいことだと思っております。地域の皆さんのお力をお借りしながら、地域力で更に子ども達が安心して放課後の時間を過ごせるように、ボランティアの方々には心からの御礼とともに今後についてもお願いして進めていただきたいと思います。

佐藤(敏)委員　私の住んでいる地域では、三世代同居の家庭が多くて、朝と夕方と送迎する家庭が多いようです。昔は近所に子どもがいたのですが、今は子どもが少なくなり、迎えに来てもらって学校からまっすぐ帰宅し、地元で子ども同士で遊ぶ機会が持てなくなっています。そういう意味でも、放課後、勉強でも遊びでもいろいろなところでできればと思います。一小、二小は子ども達は終わったときは、どうやって帰っていますか。

佐藤課長　　結構離れている地区は、朝夕送迎の人もいるでしょうね。

武田教育長　第一小学校等は、子ども教室が終わった後、児童館は遅くまでやっていますから、児童館に親が迎えに来て、帰るようになると思います。遠い地区に歩いて帰る子は、明るいうちにまっすぐ帰る子もいます。児童館に行ってないとまっすぐ帰らないと暗くなってしまいますから。

山田市長　　就学前の幼児教育について、委員の皆様からご意見がありましたらお願いしたいと思います。

高橋委員長　幼児教育は、親も含めて一番大事な時期になりますよね。幼児教育プラス親にどう係わっていくかを考える必要があります。

山田市長　　私もＰＴＡ活動をやっていましたが、ＰＴＡの講演会など実際に子育てしている親に聞いてほしいと思うのですが、なかなか来ていただけなかったりと難しさがありますね。

武田教育長　子どもが生まれて、親自身も成長していると、はっきりわかりますね。

髙橋委員長　子どもが中学校くらいになると親も成長してくるんですね。来年、小学校に入るという１年前の親は、来年学校だというので結構ぴりぴりしていたりします。その親に対して、どのように対応していくかが、効果があるように思います。

佐藤(敏)委員　地域の中の縦や横のつながり、地域全体で子どもを育てる環境が維持できるようにするには、地域の大人達の集まりとかコミュニティの重要さを痛感させられます。以前、ＰＴＡ活動をしていたときに、先輩方から子どもよりも親の教育が大事だと聞き、成人教育について取り組んできました。市や国の根幹になる部分である地域全体のコミュニティや子どもの教育等、地域力の大切さを痛感させられる場面がたくさんありますね。

山田市長　まだまだ意見交換をしたいところですが、時間になりましたので、意見交換を終了したいと思います。それでは、議長の任をここで解かせていただきますので、事務局に司会をお返ししたいと思います。

小室課長　ありがとうございました。以上をもちまして第４回総合教育会議を終了させていただきます。終了にあたりまして、高橋委員長からごあいさつをお願いします。

髙橋委員長　山田市長、本日はお忙しいところ、貴重な時間を割いていただきまして、ありがとうございました。私達として心強いのは、私達の考えをしっかり聞いていただけるということだと思います。一番大事なのは、教育は教育委員会だけではないということ、市長の考えを私達もわかって、一体となってやっていくことだと思います。市の予算もひっぱくしていると聞きました。教育はすぐに目に見えるものではありませんが、何十年か後に花開いて行くことを確信しながら、黙々と粛々と積み重ねて行くことが大事だと思っています。今日はありがとうございました。

（ありがとうございました）

小室課長　これをもちまして、一切を終了させていただきます。ありがとうございました。

（午後３時０３分閉会）